

MJO T 会報

第 18 回日本語スピーチコンテストの審査員を終えて

在ハンガリー日本国大使館
参事官 雨宮 雄治



3月20日、第18回日本語スピーチコンテスト(以下「スピコン」)の審査員を務めました。今回のスピコンは、東日本大震災直後の開催となったことから、プログラムの最初に、犠牲者の方々に黙祷が捧げられました。これまでハンガリーの方々からは沢山のお見舞いとご支援を頂いております。この紙面を借りまして、心より御礼を申し上げます。

さて、2009年7月、私がブダペストに着任して間もないある日、ゲレルトの丘からドナウ川とブダペストの町の美しい景色に見入っていると、2人のハンガリー人女子高校生から「日本人の方ですか？日本語を勉強しているのでお話をしたい。」と流暢な日本語で話しかけられました。大変驚いたのですが、今思えば、それが私の、ハンガリーに1,800人いると言われる熱心な日本語学習者との最初の出会いだったのです。私にとってスピコンは、そんなハンガリー人学生達の日本への熱い思いをテーマにした話を聞ける大変楽しいイベントなわけです。

しかし、審査員にとって、このスピコンは悩ましいイベントになります。その理由は、参加者皆さんの実力が高いレベルで拮抗していることにあります。ある人がとても上手なので満点を付ける。→ 直後に、それを上回る上手な人が出現する。→ 満点以上は付けられないので既に付けた点数を消しゴムで消す。→ 記憶にたどり右往左往しながら再採点...の繰り返し。こんなことになるのです。

外国語を学ぶことは、楽しいですが大変でもあります。私はギリシャ語の専門家です。ギリシャ語には、ローマ字のアルファベットにはない γ , δ , λ , π , ϕ , ω などの文字があったり、p の発音が r になったりと、最初は苦労しました。ギリシャ語は、そのような特性もあり、英語で「It's all Greek to me.」と言えば、「ちんぷんかんぷん」だという表現の勲章を貰っています(この点、ハンガリー語も「It's Hungarian to me.」と言えるでしょう!)。ハンガリー人の方にとって、漢字、ひらがな、カタカナありの日本語は「It's Japanese to me.」であるはずですが、日本商工会からの審査員の方が「ハンガリーにこんなに日本語が上手な人がいて大変驚いた」とおっしゃっていた言葉が正に的を射た評価であり、正に「審査員泣かせ」のスピコンでした。審査員全員による順位確定作業でも、意見が分かれました。ですから、入賞された方々には、「本当に素晴らしかったです。おめでとう。」と、そして、惜しくも入賞を逃された方々にも、「落胆することはありません。入賞者とは僅差です。」と伝えたいです。そして、「皆さん、これからどうぞ、日本を、そして、日本語を愛して下さい。」と。

最後に、日本語教師会、セント・ラースロー高校、ボランティアの方々、そして、助成支援を頂いた企業の方々に心から感謝を申し上げます。来年の次回スピコンが今から楽しみです。

おもひでぼろぼろ

元 国際交流基金ブダペスト日本文化センター
宮崎 玲子

MJOT の皆様、こんにちは。2008年9月から1年間はエルテ大学で、2009年9月から1年半はブダペスト日本文化センター（JFBP）でお仕事させていただき、この3月に帰国いたしました。在ハン中、教師会の皆様方には公私共にお世話になり、本当にありがとうございました。

3月6日に帰国し、その後1週間もたたないうちに起こった未曾有の災害。これについてはもう説明の必要もないでしょうが、日毎にあらわになる惨状に気持ちも沈みがちでしたが、実家のある関西はいい意味で元気を取り戻しています。ハンガリーからも、先日のスピーチコンテストでも多額の募金が集まったとのこと、また、国内でも支援の輪が続々と広がっているとのこと、本当に胸が熱くなります。

以前、エルテでの職を終えて、JFBPに移る時にも、本会報に執筆させていただきました。その際にも、「縁」という言葉を使ったのではないかと思います。

先日、まだブダペストにいた時、『おもひでぼろぼろ』というジブリのアニメのDVDを見ていると、なんだか懐かしいような音楽が流れてきました。それが「ハンガリーの音楽」という説明が劇中にあり、思わず巻き戻して見直してしまったほどびっくりしました。この映画は公開時に映画館まで見に行き、その後もテレビで放映されているのを見た覚えがありますが、ハンガリーの音楽が使われていたなんて記憶はこれっぽっちもありませんでしたから。思わず「ハンガリー特別バージョン？」と疑ってしまいましたが、そんなわけありません。（後で調べたところ、Márta Sebestyén with Muzsikás の曲でした。）その後、帰国して部屋の片づけをしていたところ、一本のカセットテープが出てきました。『おもひでぼろぼろ』が公開された頃、サウンドトラックのCDをレンタルして、それを録音したテープでした。そこには、小学生の私が書いた「Teremtés」などハンガリー語の文字がありました。あの時の私は、それがハンガリー語ということも、さらには、まさかその音楽の国に長期滞在することになるとは、想像だにできなかったことでしょう。ハンガリーとの縁は実はけっこう深いところにあつたのだなあ感慨深くなりました。せっかくのご縁、これからもずっと大切にしていきたいと思います。今も、この音楽を聴くと、映画の中の主人公と共に小学生時代にタイムスリップすると同時に、ハンガリーで過ごした時がよみがえってきます。

今、JFBPではフォーラム教材『できる』出版に向けて、最後の校正作業が急ピッチで進められています。JFBPでの1年半はずっと『できる』にかかりきりでした。作成に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。そして、これから使用してくださる皆様へ（一人でも多いことを祈りつつ）。まさしく私（たち）の汗も涙も（?!）いっぱい詰まった教科書です。産み落とされるのを皆様と一緒にブダペストで見ることができないのが残念でありませんが、どうか可愛がっていただけますよう、宜しく願いいたします！



『できる』の試用をさせていただいた
Városmajori 高校の学生たちと

第18回スピーチコンテストご報告とお礼

第 18 回スピーチコンテスト実行委員会
内川かずみ

2011年3月20日（日）、スピーチコンテストが開催されました。私個人には反省点が多々ありますが、スピーチ／パフォーマンス発表者を主役として、学生スタッフや、審査員、質問者、スポンサー、観客の方々、スピーチ指導や運営に携わってくださった先生方、そして実行委員会...コンテストに関わった全ての皆様と一っしょに作り上げることでできた素晴らしいイベントとなったのではないかと思います。ご協力くださった皆様に、改めて心から御礼を申し上げます。

今回のスピコンでは例年から変更した／変更になった点がたくさんありました。意図的な変更としては主に、開催時期の変更（11月→3月）や、実行委員会内・学生スタッフ共にコア・メンバーを決定したことによる仕事の効率化などがありました。意図しない変更も諸々ありましたが、中でも特に検討を要したのが、3月11日に起こった東日本大震災に伴うものでした。ハンガリーではあの後たまたま四連休があったので、私は家でずっとパソコンとにらめっこしては涙をぬぐっていましたが、学生たちは行動力があり、震災の次の日には facebook で日本を支援するグループが立ち上げられていました。それを見て私は勇気づけられ、半ば個人的に「スピコンは自粛しない。こんな時だからこそ、絶対にやる！学生たちに募金活動する場も提供する！」と決心してしまったように思います。当日は開会に先駆けて黙祷が行われ、会場では学生たちが募金を呼びかけました。

今回のコンテストでは、スピーチ部門全19名（高校生の部7名、大学生・一般のうち初中級の部5名1人欠場）、上級の部8名）、パフォーマンス部門全21名（高校生1組（歌）、小学生1組（劇））が舞台上に立ちました。加えて、カーロリ大学で生け花を教えていらっしゃる東雲先生による生け花デモンストレーションと、昨年度優勝者ボロシュ・ペトラさんによる日本旅行報告も行われました。一つ一つが本当に心に残るものでした。スペースの都合上、全部はご紹介できないのがとても残念です。

スピーチコンテストは現在のところ、ハンガリーにおける日本語教育関連行事の中で最大のものと言えます。いえ、それ以前に、スピーチには大変な教育的効果があるというのが私の持論です。出場した全ての学生と、そして私に、大きな成長の機会を与えてくれたこのイベントに心から感謝しています。

(写真撮影：マルコ・ラスロ)



バビチ・ミハーイ高校 ^{こうこう} **Japán nap** ^{にほん ひ} 「日本の日」

バビチ・ミハーイ高校
留学生 土田 真愛

バビチ・ミハーイ高校では、4月7日、9日に「日本の日」を開催しました。東日本大震災を受け少しでも多くの義援金を被災地に送れたらと、12年生の Szabó Adrién さんと Veres-Balog Melinda さんの2人の学生が提案し、「日本の日」の計画は始まりました。校長先生や先生方、学生たち、そしてバビチ以外のたくさんの方々のご協力により、大成功を収めることができました。

7日には、9日に先駆けてガラセレモニーが行われました。IV. 区内にある各学校から、多くの義援金が寄せられ、各校代表に感謝状が手渡されました。

9日には合気道、弓道、和太鼓、おりがみ、カラオケ、書道、碁、まんが部屋、お茶室(俳句)、講演、ピアノ演奏、ストリートファッションショー、DDR、生け花、ゆかたの着付け、伝統のおもちゃ、龍踊り、バザー、巻き寿司のデモンストレーション・販売などたくさんのプログラムが行われました。学生だけでなく、子ども連れのご家族などたくさんの方々に来てくださり、賑わいました。



バビチ・ミハーイ高校で学ぶ一人の学生としては、たくさんの方に来ていただき、「楽しかった」と喜んでいただけて本当に嬉しかったです。そして一人の日本人としては、日本のことをおもしろい、「日本の日」を成功させようと一生懸命準備に取りかかってくれたバビチの友人たちの姿や、ハンガリーの皆さんの温かいお気持ちが嬉しくてたまりませんでした。皆さんに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。
被災地の一日も早い復興を願って...



中国からハンガリーへ

Keleti nyelvek iskolája

飯田 規子

みなさん。はじめまして。今年 1 月にハンガリーに参りました飯田規子と申します。物心ついた頃から外国や外国語に興味がありましたが、その発音の美しさに惹かれ大学で中国語を専攻。その後天津に短期留学。やはり国を離れるともっと自国を意識するものですね。

今まで外国にばかり関心が向いていて、日本について自分がいかに無知であるか痛いほど感じました。それをきっかけに日本の美しさ、日本語の面白さに気づき、日本語教師の道を選ぶことになりました。昨年まで中国の中央部、湖北省は武漢市の大学にて日本語教育に携わっていました。

現在ペストにある Keleti nyelvek iskolája で初級～中級の学生に教えています。プライベートから 5 人前後の少人数制のため、教師と学習者が本当に近いのが自慢です。更なる研鑽の場としてハンガリーへやって参りましたが、ヨーロッパへは旅行で一回来ただけ。右も左も分からないとは正にこのことで、来たばかりの頃はまるで自分がもう一度生まれたような、赤ちゃんに帰ったような気持ちでした。最近では少しずつここでの生活に慣れてきましたが、日本語教育のほうはというと、非漢字圏の学生に日々試行錯誤の毎日です。

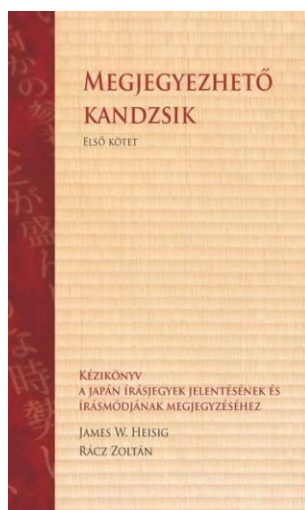
この度は、MJOT に入会させていただき、本当にありがとうございます。ハンガリーでの生活の面でも、日本語教育の面でもまだまだ勉強不足、経験不足を痛感しており、みなさまに色々ご教示いただければ幸いです。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。勉強会やその他の折にお目にかかれることを楽しみにしています。

Digitális nyomtatás a japántanítás szolgálatában <デジタル印刷で日本語教育>

白熊社 (有)

バルガ・サルボチ

20 年前と比べると、日本語を勉強するのは随分簡単になりましたが、まだ日本語資料・教材の出版は複雑で、値段も高いです。元文部省留学生である私が設立した白熊社はデジタル印刷・小部数出版などのサービスを提供し、手に入りにくい日本語教材（専門辞書、漢字の練習カードなど）を出版しています。ハンガリーの日本語教育の支援し、MJOT 会員に割引価格で販売しております。詳細については www.shirokuma.hu を参照してください。ウェブショップ: www.maido.hu



しろくましゃ しゅっぱん かんじきょうざい
白熊社が出版している漢字教材

Néha eltöprengek, mennyivel könnyebb ma japánul tanulni, mint húsz éve, amikor szinte egyáltalán nem lehetett tananyagokhoz jutni... de az igazság, hogy a szűk piac és az emiatt drága könyvkiadás még mindig kínozza a magyarországi japánnyelv-oktatást. Egy kicsi kiadó tulajdonosaként azonban nekem megadatott, hogy legalább egy kicsit javíthassak ezen a helyzeten. Digitális nyomdánk, és elhivatott munkatársaink segítségével képesek vagyunk kis példányszámban, borzalmas induló költségek nélkül is előállítani igényes kiadványokat.

A Shirokuma Kft. – amelynek tulajdonosa maga is volt Monbusó-ösztöndíjas – mostanra több éve igyekszik a maga szerény eszközeivel hozzájárulni a magyarországi japánoktatás segítéséhez. A cég kandzsi-gyakorlókétyáival

és kana-gyakorlófüzeteivel alighanem minden japántanár-kolléga találkozott már, de talán kevésbé ismert tény, hogy felvállaljuk és támogatjuk könyvek, szótárak kiadását is, amelyeket a potenciálisan kis piac miatt más kiadók visszautasítanak. Nemrégiben jelent meg James Heisig *Megjegyezhető kandzsik* című munkája Rácz Zoltán fordításában; újra kiadtuk Kós Péter kandzsiszótárát, amely az eredetileg a Külkereskedelmi Főiskola gondozásában jelent meg; és még az idei évben további (új és átdolgozott) szótárak és könyvek kiadását tervezzük. Vállaljuk kis példányszámú, mégis igényes megjelenésű, ragasztókötött kiadványok, tankönyvek, munkafüzetek, de akár szókartyák, kirakós játékok és egyéb speciális oktatási segédanyagok előállítását is.

Legfrissebb kiadványainkról itt tájékozódhat: www.shirokuma.hu

Az MJOT tagjai számára a webáruház (shop.maido.hu) áraiból további kedvezményeket biztosítunk.

運営委員会より

① 4月9日(土)

バビチ・ミハイ高校「日本の白」

3・11 東日本大災害の義捐金を集める目的で開催されました。MJOT 正会員の佐藤節子先生の呼びかけで、運営委員会も会場へ行き、MJOT 開発教材を販売しました。販売による収益を全て校長先生にお渡しし、当日集まった義捐金の一部にいただきました。

早朝から夕方遅くまで、佐藤節子先生、ご苦労様でした。

美味しいお寿司、ご馳走様でした！

② 4月15日(金)



MJOTからの義捐金を伊藤大使へ

MJOTからの義捐金として10万Ft.を駐ハンガリー日本国全権伊藤大使にお渡ししました。大使館より日本赤十字に送られます。皆様が毎年納めてくださる年会費や教材販売によって得られた収益の一部を支出しました。



③ MJOT 定例総会: 10月上旬

すでにMJOTのMLでお知らせしましたが、今年の定例総会は10月上旬に行う予定です。総会前にはフォーラムの研修会を予定しています。地方在住の方々には往復の交通費補助が出ます。研修会後の総会へも是非ご出席ください。

スピコン実行委員会より

3月20日、セント・ラースロー高校において、無事に第18回日本語スピーチコンテストが終了しました。ありがとうございました。

(実行委員長: 内川かずみ)

日本語キャンプ実行委員会より

第三回日本語キャンプ

・実施期間: 7月4日(月)～8日(金)

・実施場所: 法門仏教大学

間もなくキャンプのHPを立ち上げます。6月に入ってから、キャンプ日本語講師の募集をしますので、よろしくお願いします。

(実行委員長: セメレイ・マルトン)

教材作成チームの発足案内

A Fórum támogatás utolsó időszakában szeretnénk a taneszközök, oktatási segédanyagok fejlesztésére (jobban) koncentrálni. Kérjük, hogy akiknek ötletük, szabad kapacitásuk vagy csak egyszerűen kedvük van részt venni egy ilyen jellegű munkában, jelentkezzenek a Vezetőség tagjainál, vagy a horvath.krisztina2@chello.hu címen.

教材作成チームに参加できる方、連絡ください。

MJOT 会報 22 号

発行: 2011 年 4 月

発行人: ハンガリー日本語教師会

編集: 小野久禎